

三日市遺跡調査概要Ⅲ



昭和62年3月

三日市遺跡調査会

序 文

周囲を山々に囲まれた河内長野市は、大阪府の東南部に位置し、清らかな山河と澄み切った大気の中で、貴重な文化財を今日まで伝えてきたゆかしいまちである。その中でも三日市地区は、古来高野山へ参詣する高野街道沿いの宿場として栄えてきた土地です。しかし、時は流れ時代は変わり、近年は大阪のベッドタウンとしてのニーズが高まって新興住宅地が急増し、都市機能の整備・充実が必要となっていました。

今回、この一環として三日市・片添地区特定土地区画整理事業を行うはこびとなり、当該地に所在する三日市遺跡の発掘調査を行うことになりました。そして昭和59・60年度の発掘調査によって旧石器時代から近世にいたるまでの遺構・遺跡が出土しています。また本年度については、過去2年間に得た重要性をより一層強く確信するとともに合わせて埋蔵文化財の保護についても理解を図ることができたと考える次第です。

最後に調査にあたって御指導・御協力を賜わった土地所有者・大阪府教育委員会・河内長野市・河内長野市教育委員会・住宅都市整備公団関西支社・同大阪南宅地開発事務所の関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

また本書が少しでも多くの方々に活用され文化財保護の一助となることを期待してやみません。

昭和62年3月

三日市遺跡調査会
理事長 平井義信

例　　言

1. 本書は河内長野市三日市町・片添町に所在する三日市遺跡の昭和61年度調査概要報告書である。
2. 本調査は三日市遺跡調査会が住宅都市整備公団の委託をうけて行なった。
3. 調査及び概要作成には三日市遺跡調査会尾谷雅彦・土師春樹・高正龍・四宮加容子・亀山隆が当たり、本書は各調査員の所見をもとに、亀山が執筆し、尾谷が編集を行なった。
4. 調査実施にあたっては大阪府教育委員会、河内長野市教育委員会、河内長野市、住宅都市整備公団関西支社、同大阪南宅地開発事務所、地元地主の方々などの関係各位に協力を得た。
5. 調査作業については株式会社大林組の協力・壱山建設株式会社を得た。
6. 本書の作成には河内長野市社会教育課の協力を得た。

目　　次

1. 位置と環境	1
2. 59・60年度調査の成果	1
3. 昭和61年度調査の成果	4
中世以前の遺構・遺物	5
中世の遺構・遺物	5
近世の遺構・遺物	9
ま　と　め	14

1. 位置と環境

三日市遺跡は河内長野市のほぼ中央部、現行政区画の片添町から三日市町にかけて所在する。遺跡は、石見川の北岸の河岸段丘と南岸の海拔120m～180mの丘陵性山地の末端に位置する。周辺には、弥生中期の遺跡として塩谷遺跡、弥生後期の高地性集落と考えられる大師山遺跡がある。古墳時代になると大師山遺跡と重複して大師山古墳が存在する。この古墳は主體部が粘土構と推定される全長50m程の前方後円墳で、內行花文鏡や碧玉製石製品が出土したことで著名である。古墳時代後期になると塚穴古墳、鳥帽子形古墳などの横穴式石室を有する古墳が点在する。平安時代になると觀心寺、河合寺、金剛寺などの寺院が文献上に現われ、これらの寺院やその莊園に関連する遺跡の存在が想定される。中世には寺院の他に、高野街道に沿って石仏遺跡などの集落遺跡や鳥帽子形城などの山城が多数存在する。この様な歴史的環境の中で、三日市遺跡は複合遺跡として南河内の中でも重要な位置を占めるものである。

2. 昭和59年度、60年度調査の成果

昭和58年度に(財)大阪文化財センターが行った試掘調査によって大規模な遺跡であることが確認された三日市遺跡は、昭和60年1月からの本調査によって多くの成果を得た。

当初、この遺跡は中世を主体にした遺跡と考えられていたが、調査の進行とともに旧石器時代から近世に至るまでの複合遺跡であることが判明した。旧石器時代のものは、遺構は検出されなかったもののナイフ型石器や石核などが出土している。縄文時代には早期の高山寺式押型文土器の破片が出土しており、大阪府下でも貴重な資料と言える。中期から後期にかけては中津式土器を中心とした土器、晩期には滋賀里III～IVの土器の出土を見た。弥生時代前期は遺構、遺物の検出は見ていないが、中期から後期になると、住居跡や甕・壺・高杯などの出土が見られる。古墳時代には、7基の古墳と15棟の竪穴式住居を検出し、これらから盾や輶の形象埴輪・須恵器・韓式系土器などが出土した。ことに韓式系土器は当地域



第1図 河内長野市遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	塙谷遺跡	弥生時代中期～中世	41	古野町遺跡	中世
2	千代田神社遺跡	中世	42	膳所瀬陣屋跡	近世
3	妻子尻遺跡	弥生時代～中世	43	本多瀬陣屋跡	近世
4	小山田2号古墓	奈良時代	44	長野神社遺跡	中世
5	小山田1号古墓	奈良時代	45	河合寺境内	中世
6	寺ヶ池遺跡	旧石器時代～縄文時代	46	畠田家住宅	近世
7	住吉神社遺跡	中世	47	末広窯跡	中世
8	伝「仲哀廟」		48	河合寺城跡	中世
9	長池窯跡群	中世	49	鳥帽子形八幡神社本殿	中世
10	青ヶ原神社遺跡	中世		鳥帽子形城跡	中世
11	塚元古墳・上原遺跡	古墳時代後期～中世		鳥帽子形古墳	古墳時代
12	高向遺跡	古墳時代後期～中世	50	大師山遺跡	弥生時代中期
13	惣持寺跡	中世		大師山古墳	古墳時代前期
14	上原町墓地		51	大師山南古墳	古墳時代
15	高向神社遺跡	中世	52	觀心寺	平安時代～
17	宮山古墳	古墳時代後期	53	川上神社遺跡	中世
18	高木遺跡	旧石器時代～縄文時代	54	延命寺	
19	峯山城跡	中世	55	経塚	
20	日ノ谷城跡	中世	56	三日市遺跡	旧石器時代～近世
21,22	仁王山城跡	中世	57	加賀田神社遺跡	
23	摩尼院書院		58	庚甲	
23	金剛寺		59	石仏城	中世
24	日野觀音寺遺跡	中世	60	清水遺跡	中世
25	稻荷山城跡	中世	61	薬師寺石造五輪	
26	旗藏城跡	中世	63	左近城跡	中世
27	国見城跡（小滝城跡）	中世	64	千早口駅南遺跡	中世
28	泡尻跡・弥堂跡		65	地藏寺	
29	権現城跡	中世	66	伝人江時親廬跡	
30	清水阿弥陀堂跡	近世	67	旗尾城跡	中世
31	萬仰埋墓	近世	68	葛城第18岩城経塚	
32	堂村地蔵堂跡	近世	69	天見駅北方遺跡	中世
33	中村阿弥陀堂跡	近世	70	葛城第16経塚	
34	宮ノ下内墓	近世	71	蟹井瀬北遺跡	中世
35	天神社遺跡	中世	72	蟹井瀬神社遺跡	中世
36	西の村阿弥陀堂跡	近世	73	蟹井瀬南遺跡	中世
37	東の村観音堂跡	近世	74	流谷八幡神社遺跡	中世
38	光庵寺遺跡	近世	75	岩湧寺多宝塔	
39	五木古墳	古墳時代後期	76	葛城第15経塚	
40	古野古墳	古墳時代後期	77	岩湧山	

第1表 河内長野市遺跡地名表

と渡来系氏族との関連を考える上で興味深い資料である。奈良、平安時代には、若干の土器が出上した他には顕著な遺構・遺物は検出されていない。鎌倉時代になって当遺跡該当地に集落が形成され始めたと思われ、それが室町時代に向けて次第に発展し、14世紀から15世紀にかけてその最盛期を迎えたと考えられる。その後一旦廃絶期を迎えた後、18世紀になり再び村落が形成され現在に至ったと言う経過が推測し得る。このように三日市遺跡は中世から近世にかけての集落の変遷、ひいては庶民生活の姿を復元して行く上で貴重な資料と言えよう。



第2図 調査区配置図

3. 昭和61年度調査の成果

昭和61年度の調査は二ヵ所を、昭和61年5月21日から6月25日までと、昭和61年6月9日から12月24日まで行った。今回の調査地は双方、昭和60年度調査地に隣接する場所で、石見川北岸の段丘と、石見川南岸の丘陵の最北端にあたる。石見川北岸の段丘に所在する調査区は、特に注目すべき遺構・遺物は検出されなかった。石見川南岸の丘陵に所在する調査区の北は、石見川と比高差30mの崖となっている。当調査区は地元の伝承で、かつては寺院のあった場所と言われ、さらに当市に残る中村家文書の内、『元禄五年十一月錦部郡之内本多隱岐守領分寺社帳写』の片添村の条に、

無本寺

東西拾毫間

一 大日寺敷地境内 南北拾八間 除地、
右寺式間四方 無住 持主源左衛門
往古者六間半ニ四間之寺ニ御座候山中伝候、

とあることから、調査地にはここに見られる大日寺の所在が想定されていた。また、60年度調査で多数の瓦が検出されていることとも相まって、寺院及び寺域の確認を主体として調査を行った。

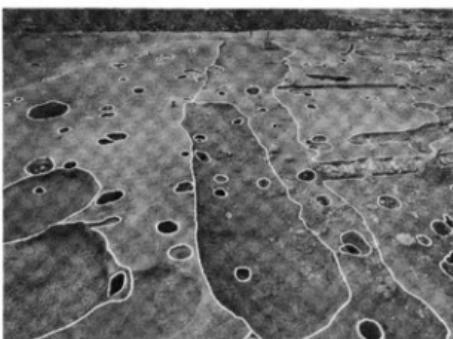
その結果、寺院跡と推定し得る遺構を始め中世及び近世の遺構・遺物を検出した。

〈中世以前の遺構・遺物〉

中世以前の遺構は全く検出されなかった。遺物も包含層内にサスカイト片と須恵器片が見られる程度である。

〈中世の遺構・遺物〉

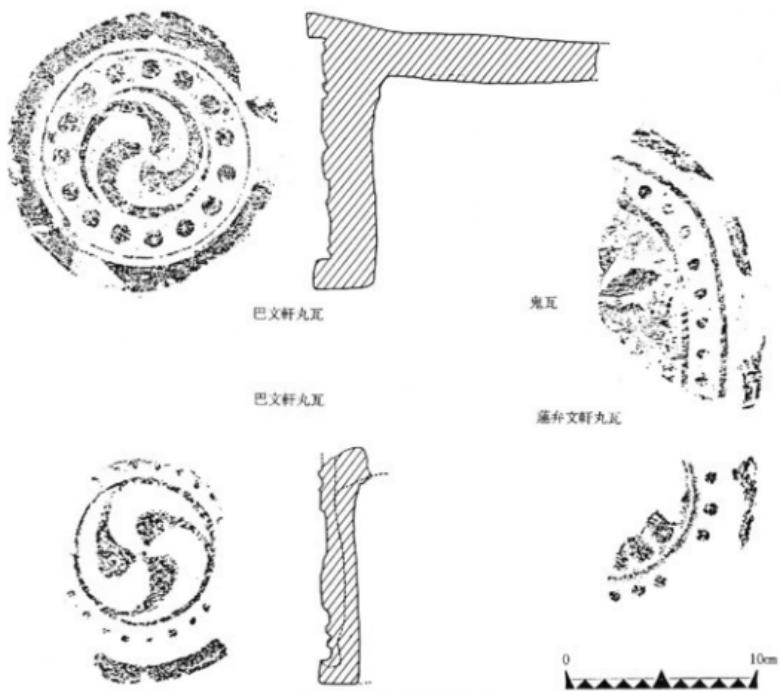
今回の調査では主に丘陵の北端に中世の遺構、遺物が集中した。最も注目されたのは、大量の瓦が検出されたことで、当初の予想通り寺院跡の可能性をうかがわせるものである。建物跡として、 2×3 間以上の掘立柱建物が3棟検出された。この内の1棟は根石を有するものである。またこの建物の周辺に焼土が広がっていることや、この建物に重複する井戸の中から炭化した建築部材が出土したことからも、この建物は焼失したものと考えられる。建物に重複する井戸の中からは建築部材の他に、花瓶・鎌・漆器椀・たも・斎串・卒塔婆などが、さらに建物の柱穴からは五輪塔の基礎



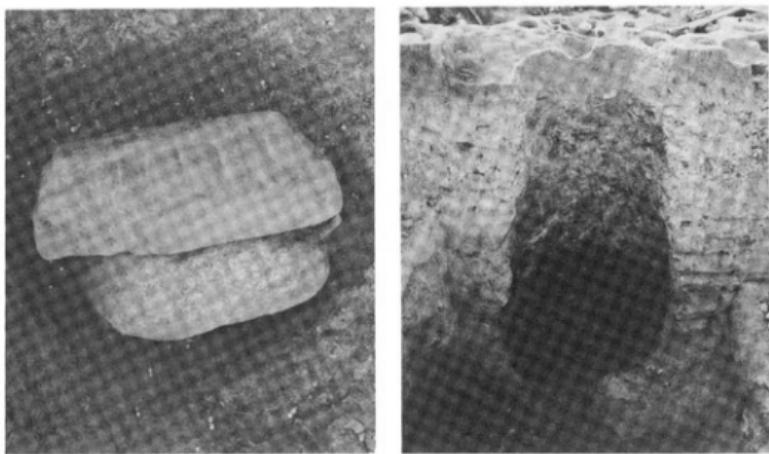
中世掘立柱建物



造構全景



第3図 出土した中世瓦

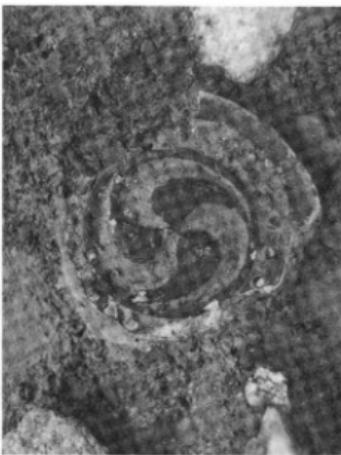


五輪塔基礎

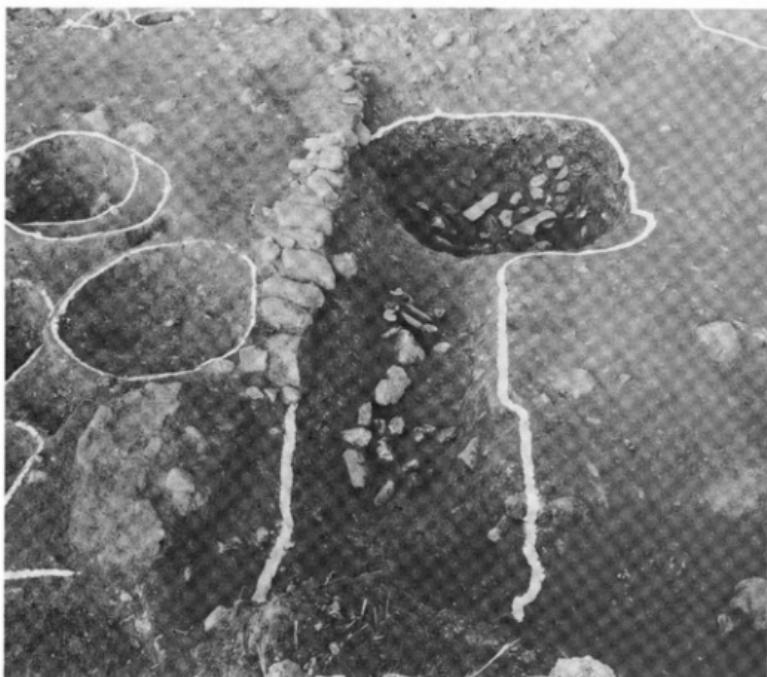
井戸たちわり状況

が出土した。また建物のすぐ脇には瓦溜があり、多数の瓦が出土した。これによって、前年度調査において検出された掘立柱建物と比較した場合、今回検出した建物跡は寺院跡と充分推定できるものである。さらに今回出土した瓦は前年度調査で検出された井戸から出土した瓦よりも古式のものが見られ、従来考えられていた寺院の存在時期を、室町時代から鎌倉時代にまで引き上げることができ、集落の発展とその中の寺院の性格を考える上で重要なものと考えられよう。

遺物は瓦や木製品の他に、瓦器・土師質



出土した中世瓦



瓦溜り

土器・羽釜・すり鉢などがあり、これらの土器類はいずれも14~15世紀にかけてのものと推定される。

〈近世の遺構・遺物〉

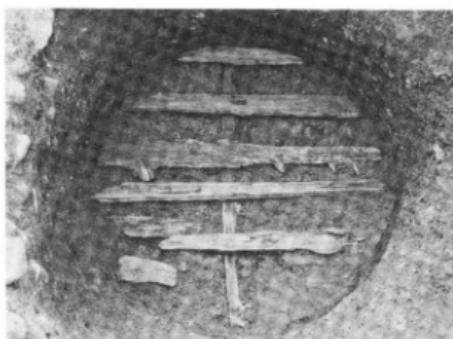
前回の調査では、墓跡・水利施設を主体とした遺構が検出されたが、今回もそれらに関連した遺構が検出された。墓は現在もなお墓地として利用されている場所と、現在は耕作地になっている場所との2ヶ所に分かれ、現在は耕作地になっていた場所は、前年度検出された墓と同様に、当初付近一帯にあった墓を一ヶ所にまとめたため、廃絶したものと推定されるものである。現在もなお墓地として利用されている場所は、一部耕作地となつてはいるが、推定寺院跡と目される地點のはずれに位置し、埋桶や墓石などが出土している。このようにほぼ同時期でありながら、墓地が寺域内とその外に分れることは、集落内における寺院と共同墓地の関係をうかがい知ることができるものと言える。また、新たに基壇状を呈



基壇状の石列

する石列を検出した。これは軸線を南北に取り、長さ7m程で、西側は削平を受けていると思われる。但し、これが直接寺院ないしはそれと関連する遺構の基壇とは考え難く、むしろ寺域を設定しているものとした性格が強いと考えられる。石列基壇の西側には2×2間の建物跡があり、その中央部に竈跡がある。竈跡は長径80cm、短径60cmの梢円型土壌に高さ50cmの立石を対に配し、その周囲を径10cm～20cmの礫で囲ったものである。梢円型土壌内部は酸化しており、土壌前面及び下層には炭化層が広がる。上面はある程度削平を受けていると思われるので、全体像の復元は困難であるが、これらが建物に伴うものであれば建物の構造、庶民生活史の研究の上で好資料となり得る。そう言った意味で、時期の推定・構造の復元、さらには類似例との比較と言った検討が必要であろう。

寺院関係以外の遺構として、瓦窯関係の遺構が検出された。前年度の調査でも瓦窯関係の遺構として登窯状遺構や粘土採掘場を検出したが、今回はロストルを持つ、所謂ダルマ窯と称される遺構と、建物跡を始めとする瓦工房と考えられる遺構群を検出した。これ等遺構群から『片瓦太』と刻印のある平瓦が出土しており、ここに瓦



埋 桶



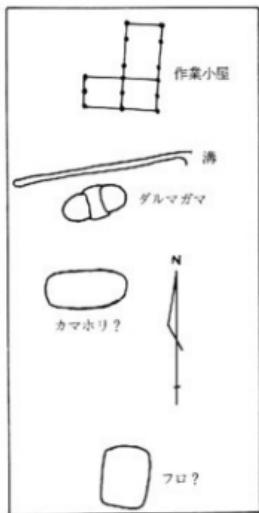
埋 瓦



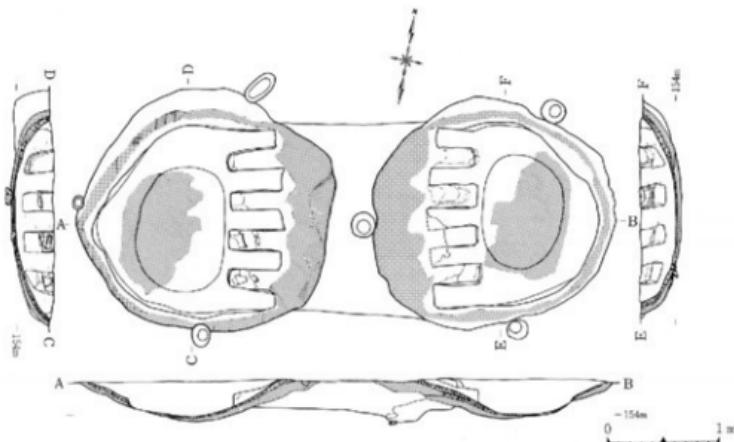
第4図 刻印瓦(1/1)

屋が存在したことは間違いない、かつて片添地区に瓦屋があったと言う伝承もこれで裏付けられる。この瓦工房を復元すると、窯が中心にあって、その回りにミズアワセをするフロや、焼損した瓦などを廃棄したと思われる場所があり、さらに作業小屋を伴う構造である。現在操業している瓦工房と比較して見ると、概ね同じであると言える。このダルマ窯は本来の平窯の姿からはかけ離れており、平窯を二つ合わせた形をしたものである。この形態の窯は、江戸中期から昭和30年代まで使用された形態であるが、今回検出した遺構群からは江戸末期から明治にかけての遺物が出土しており、これを工房の存続時期と考えるが、その時期決定に関しては、より細かい検討が必要である。この他に水利施設、耕作地跡やそれに伴う小屋跡などを検出している。

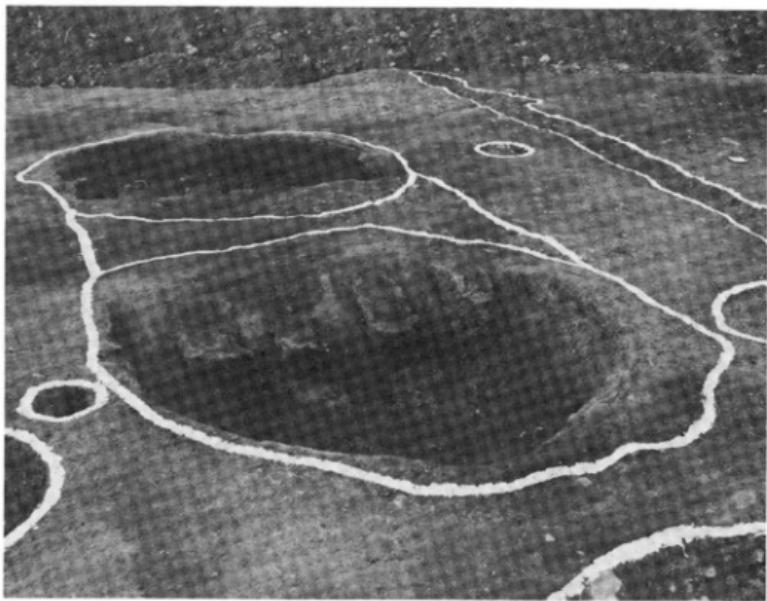
遺物は瓦工房に伴うものとして多量の瓦、墓跡に伴うものとして湊焼大甕・染付・墓石などがある。墓石には文化四（1807）年の銘があり、他の遺物もこれと並行するものと思われる。



第5図 瓦工房復元図



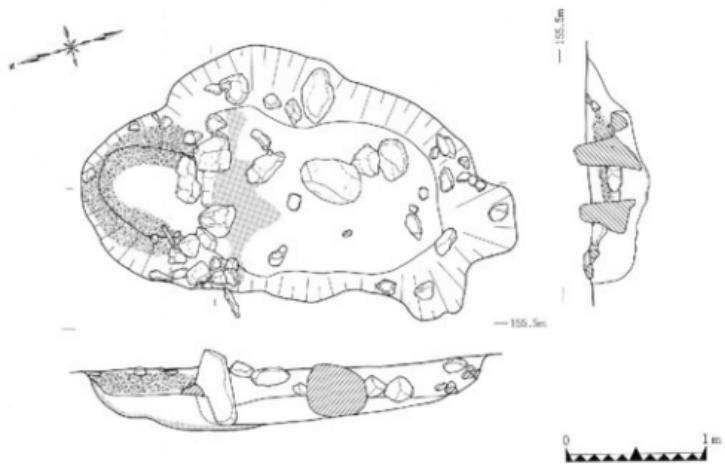
第6図 瓦窯実測図



瓦 窯



瓦工房作業小屋



第7図 窟実測図



窓



墓石出土状況

〈まとめ〉

本年度の調査の成果は、中世集落における寺院の位置とその性格を解き明かす一端となり得ることは間違いない。また瓦工房の検出は、南山城や大和の瓦主要産地以外の在地に於ける瓦生産の実体を知る好資料を得ることができた。このような成果をふまえて旧石器から近世までの複合遺跡として、今後さらに多角的な視野からの検討を行ないたい。

三日市遺跡調査概要Ⅲ

昭和62年3月

発行 三日市遺跡調査会

印刷 中島弘文堂印刷所

